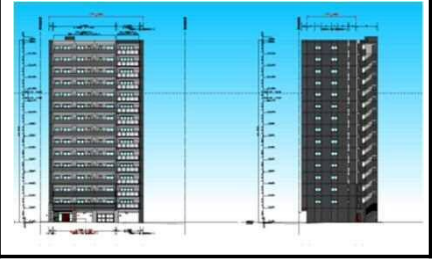


# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル (2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンス ロジェ 庄内通四丁目(11-1)	階数	地上15F、地下0F
建設地	愛知県名古屋市中区庄内通四丁目10番の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	202人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 予定	評価の実施日	2023年10月16日
敷地面積	842 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	309 m <sup>2</sup>	確認日	2023年10月19日
延床面積	3,816 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 91%  
③上記+②以外のオンサイト手法 91%  
④上記+オフサイト手法 91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア1.8

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	適音性能の良い建具やF☆☆☆☆建材を採用し、室内の環境を向上させている。外壁や内壁は清掃しやすく長期で維持できる材料を採用し、建物の長寿命化を図っている。	その他 特に無し
<b>Q1 室内環境</b>	住戸部分の建具は窓・玄関ドア共に適音性能T-2以上のものを採用している。日光の利用や室内の換気が十分に行える大きさの窓が主たる室に設置されている。建築材料は全面的にF☆☆☆☆規格のものを採用し、ホルムアルデヒド対策を行っている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内に植栽を施し景観の向上を図っている。
<b>LR1 エネルギー</b>	建物全体BEIが省エネ基準に適合している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地内に十分な駐車場・駐輪場を設置し、交通負荷抑制を図っている。
<b>Q2 サービス性能</b>	外壁にはタイル貼を採用し、建物の長期利用・維持管理ができるように配慮されている。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	節水型水栓を採用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)プレサンス ロジェ 庄内通四丁目(11-1)

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>4.1</b>
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.6</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>2.8</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 4.1
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 1.6
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 2.8

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。